

一冊の本から学んだこと

ある日、我が家の倉庫にある本を整理しているときのこと。一冊の分厚い本を見つけた。何だろうと思いつながらその本を開いてみると、そこには私が住んでいる村のことがたくさん書いてあった。私は村の昔話やお寺、神社などの歴史に関する話や本がとても好きで、その本を読んでみようと思った。読んでいく中で、一つ私の興味をひく話があった。それはダム建設の話だ。

私が一番興味をもったのがダム建設前に住んでいた住民達の話だ。本に載っていた、ダム建設前の故郷の写真と、ダム建設後の今の風景写真。もちろん建設前の風景は私は直接見たことがなく、こんな感じだったんだな、ぐらいしかとらえられなかった。しかしい本を讀んでいくにつれて住民達の大変さを知ることになり、私は軽い気持ちで写真を見ていた

山添存立山添中学校 三年

大窪 紘果

自分自身が恥ずかしくなった。

ダム建設の話が出た当時、住民達は、「ダム建設絶対反対」という看板を掲げ、一生懸命故郷を守るために反対運動を行った。だがダム建設は本格的に動き出し、建設作業がはじまっていった。住民達はどんな気持ちだったんだろう、と考えてみた。私が考えても十分にわかることのできないほどのつらさ、悲しみ、怒り、さびしさ。読んでいるうちに悲しくなっていた。しかし、その犠牲の上に私達は今、水に不自由することなく幸せな生活を送ることができている。そのことについて本当に感謝したいと思った。

ダム建設で住民達は新しい住む場所を考えなければならぬ。村に残り生活する人達もいれば村を出て新しい場所で新しい生活を始める人達もいた。今まで同じ村で生活してきた

た親しい人達と離れ離れになるのだ。住み慣れた家、キレイな花や草木、緑で美しい山、いつも目にして通りなれた道、そのすべてが水の中に消えていく。そんな思いをしてまで、ダム建設を了承してくれて、未来の私達のために故郷を手放した住民の皆さんのことを私は忘れてはならない。私達が今、のどがかわいた時にすぐ水を飲める環境で生活できるのも、ダム建設にかかわったたくさんの人達のおかげなのだ。

私は本を読むことで、これまで知らなかったことを新たに知ることができ、ダム建設のために家を立ち退かざるを得なかった人々がいることもわかった。ごく普通にいつもどおり見ていたダムが実は人々の苦労や悲しみ、努力など、たくさんの思いの上にできていること。今回学んだ、ダム建設の大変さ、住民の方々の思いを胸に、水を大切にす生活の心がけ、感謝の気持ちをもって水を使おうと思う。また、これからもダムや水の大切さについて考え調べていくつもりだ。今までの人達の苦労を無駄にしないよう、私達がまず水を大切にす取り組みを実践し、次の世代に

きれいで豊かな水を受け継いでいくとともに水の大切さを伝えていくべきだと思う。